

学校だより

空手道部

男女で県大会優勝 沖縄インターハイへ

令和元年6月に一つの夢が現実となった。その夢とは「インターハイ女子団体組手出場」である。創部数十年、数多の先輩達はその夢を叶えようと、挑んでは敗れ競って散り、その度に万斛の悔し涙を流し、引退の際には、次の代にこの会稽の恥（敗北の悔しさ）を雪がんことを、託し続けてきた宿願である。その夢がついに現実のものとなったのだ。（顧問 荒川正人）

空手道部主将をつとめたのは、矢古宇穂空さんである。矢古宇さんが2年次にインターハイ出場をかけた試合で負けてしまっただけでなく、悔しさをバネに必死で練習に取り組んできた。3年次に出場した県大会では、その想いをぶつけ、見事優勝することができた。

女子団体が県大会を優勝してインターハイに出場するのは創部以来、初の快挙である。感謝の気持ちを胸に挑んだインターハイは、惜しくも1回戦で敗退することとなった。しかし、「支えてくれた仲間がいたから、ここまで頑張ることができた。」と前を向く矢古宇さんはとても頼もしく、後輩達に、全国で1勝をと願いを託した。



左から神保、矢古宇、山本

男子バスケットボール部

県新人大会ベスト4進出



男子バスケットボール部は、第75回栃木県新人大会にて第4位に入賞することができました。決勝リーグでは、1日2試合を2日間続け、体力的にも精神的にもとても辛く大変でしたが、大きく成長できた大会でした。ここ数年の成績はベスト8までいくものの、その先へ行くことが課題でした。しかし、今回の結果から強い自信と強い結束力を持つことができました。今後も「堅守速攻」のもとに日々練習に励み、徹底して走ることで勝機を得ていきたいと思います。大会には、毎回多くのOBの方々や保護者の方々に応援に来て頂き、感謝の気持ちで一杯です。今後も先輩達が築いてきた栄光に近づけるように努力を重ねていきたいと思います。（顧問 福田健一）

も精神的にもとても辛く大変でしたが、大きく成長できた大会でした。ここ数年の成績はベスト8までいくものの、その先へ行くことが課題でした。しかし、今回の結果から強い自信と強い結束力を持つことができました。今後も「堅守速攻」のもとに日々練習に励み、徹底して走ることで勝機を得ていきたいと思います。大会には、毎回多くのOBの方々や保護者の方々に応援に来て頂き、感謝の気持ちで一杯です。今後も先輩達が築いてきた栄光に近づけるように努力を重ねていきたいと思います。（顧問 福田健一）

バレーボール部

茨城国体出場へ

商業科 大掛美香

「第74回国民体育大会出場にあたり、皆様からご支援ご声援を頂き深く御礼申し上げます。私は、少年女子バレーボール競技の栃木県選抜選手として、8月の関東ブロック大会で、群馬県と埼玉県に勝利し、本国体出場を果たしました。本国体では、東海ブロック1位の愛知県に競り勝ち、次に、ベスト8をかけて京都府と対戦しました。接戦を勝ちきれませんでした。12名の仲間とスタッフと共に過ごし結果を出せたことは一生の財産となりました。後輩達にも、国体選手として全国で活躍してもらいたいと切に願っています。」（商業科 大掛美香）

大掛さんは、身長が周りとは比べるととても低く、最初選ばれたときはすごくびっくりしたそうです。しかし、選ばれたからには楽しもうと決心し、試合に臨みました。

国体は、普段の試合で見る光景とは全く違って、とても緊張した様子でした。国体選手の中では背の低い大掛さんですが、ムードメーカーをつとめ、周りに声をかけながら試合に参加し、常に準備を行っていました。栃木県、宇商高の代表として試合で戦う姿は、見ている人に勇気と感動を与えてくれました。



2列目 No.9が大掛選手

硬式野球部

県大会ベスト4の躍進

『獅子奮迅』の文字に迎えられ、甲子園県大会に臨みました。1回戦から宇都宮白楊、栃木商業、今市工業、石橋と勝利し、8年ぶりのベスト4に進出しました。準決勝は県大会を連覇している作新学院と対戦することになり、全校応援の大応援団で埋め尽くされたアルプススタンドと共に「チーム宇商」で戦いました。中盤では二度にわたり、逆転するなど粘りを見せたものの、4対7で敗退。多くの応援に励まされ最後まで戦うことができました。（顧問 山口晃弘）

主将の鈴木くんは、「厳しい練習を仲間と乗り越えたからこそ、ベスト4を達成できました。また、地域の方々やOBの方々、保護者の方々、先生方の支えがあったからこのような結果となり、本当に感謝の気持ちで一杯です。」と嬉しそうに話してくれました。



力投する高根澤選手



逆転ヒット！寺内選手

